



基本理念
 私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開してまいります。
 独立行政法人
 国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会 / 代表●大串文隆 / 住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号 / 電話 088-844-3111 / FAX 088-843-6385

臨床研究の必要性



NHO高知病院 院長
大串 文隆

今年も開院記念の一つとして各部署からの研究発表が行われました。臨床研究部長の篠原勉先生を中心に毎年企画開催されていますが、今年は発表の希望者が多く調整に苦労されたようです。開院した頃開催された日本医療マネジメント学会の高知支部会では当院からの発表演題が決まらずやっとの思いで1演題を申し込んだことが思い出されます。しかし、現在では全国学会や地方会に多数の演題を発表し、今年の医療マネジメント学会の高知支部会では県内の病院の中で最も多くの演題を発表するまでになり、職員の学会への取り組みの変化を感じることができます。当院は開院以来高度医療、臨床研究、教育・研修、情報発信、経営基盤の確立を基本姿勢として病院運営に取り組んでいます。病院として高度医療の提供や経営基盤の確立は当然のことですが、臨床研究、教育・研修は国立病院機構の病院として推進すべき重要な課題の一つと位置づけております。今回の多数の部署からの多職種からの発表に高知病院が新しいステージに上がったことを実感しました。また、発表は全て質の高い発表であり、更に発展させ全国学会での発表や誌上発表につながることを期待しております。最近昨年度の国立病院機構の各病院での学会発表数と誌上発表数についての報告がありましたが、高知病院は他の病院と比較しても多数の業績があり、特に国際誌への発表も多く高い評価をうけております。最近の大きな話題としてノー

ベル物理学賞が青色発光ダイオード（LED）の発見により赤崎勇先生、天野浩先生、中村修二先生の3名の研究者に授与されることが連日ビッグニュースとして大きく報道されています。今回の受賞対象は今までとは異なり「明かり」に関するもので、ノーベル賞が身近に感じられた人も多いと思います。選考委員からは青色LEDの発見で「白熱電球が20世紀を照らした。21世紀はLEDが照らす」と声明が出されています。臨床研究とこのような仕事を比較することはできませんが、本質のところでは通ずるところがあるように感じます。青色LEDは人類への大きな貢献ですが、私達が取り組む臨床研究から得た結果は個々の患者さんへ還元されることで医療に貢献することができます。臨床研究を行っていくことは医療の質をあげることであり、臨床研究なくしては医療の進歩はないと思います。臨床研究に力を注ぎ優れた研究を発表することは病院がこの高知で存在感を示すためには必須のことです。地方の病院で臨床研究の環境がそろっているわけではありません。しかし、中村修二先生は徳島大学を卒業し地方で研究をすすめ大きな成果を出しており、地方大学出身者でもノーベル賞を取ることができることを証明してくれました。地方の病院である利点を活かして全国に注目されるような研究発表ができるように一緒に頑張っていきたいと思います。



第10回中国四国地区国立病院機構・ 国立療養所看護研究学会の発表を終えて

看護師 山内 真菜瀬



2014年9月20日に高松で開催された第10回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会でポスター発表を行いました。

私達3階南病棟の研究グループは、プリセプターを研究対象とし、プリセプターを乗り越えられたのは心の支えとなる体験があったのではないかと考え、初めてのプリセプター経験をテーマに研究に取り組みました。研究方法は半構成的インタビューガイドを用いた面接を行い、インタビュー内容をカテゴリーに分類し考察を行っていきました。研究結果は、プリセプターは「病棟の雰囲気」「同期の存在」「プリセプティとの関わり」に心の支えと感じていたことが分かりました。また、プリセプターは先輩・上司からの声掛けが支えとなる反面、負担となる状況もあることが分かりました。

発表後の質疑応答では、先輩・上司からの声掛けがプリセプターの負担となった具体例について質問

がありました。プリセプターはプリセプティの精神的支えとなることが目的となっていますが、日々の業務の行えていないことや経験項目の達成などについて先輩から言われることが負担となっていたという意見があり、プリセプターの役割の共通認識と周囲の支えが必要であると答えました。

発表では制限時間の3分以内に研究した内容について要約するのは大変でしたが、無事に発表を終えることが出来ました。結果、座長賞に選ばれ、研究グループ皆で苦勞のかがあったと喜びました。研究発表を行うことで自分たちの研究を振り返り、意見を発信する貴重な体験となりました。今回の研究を活かし、今後のプリセプター支援に取り組んでいきたいと思っています。





日本医療マネジメント学会に参加して

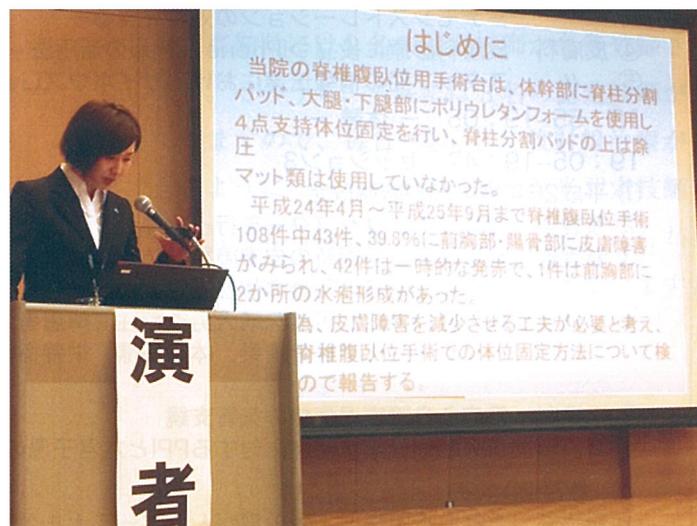


看護師 永谷 真紀子

第12回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会が平成26年8月24日高知市文化プラザかるぼーとで開催されました。口演発表14セッション62演題、特別講演等が実施され、医師・看護師・薬剤師・栄養士・事務職・その他多職種の医療関係者が集いました。学会では医療安全・感染対策・栄養管理・組織・ヒトの管理・モノの管理など様々な分野で演題が発表され、良質で安全な医療を提供するための努力と研鑽が伝わり、大変興味深く聴講できました。

私は、平成25年度手術室医療安全チームが取り組んだ「脊椎腹臥位手術時の皮膚障害予防～体圧軽減のための体位固定の検討～」のテーマで口演発表を行いました。特殊体位である脊椎腹臥位手術では、

限られた条件のマットレスしか使用できない為、前胸部や腸骨部に体圧による皮膚障害が発生しやすい状況にありました。そこで、脊椎腹臥位手術での体圧による皮膚障害を軽減することを目的として、整形外科・麻酔科医師と共に体位固定方法について検討し、低反発ウレタンフォームを使用した体位固定方法を新たに考案しました。従来の体位固定方法に比べて、低反発ウレタンフォームを使用した体圧固定方法は体圧分散や腹部の除圧、患者の安全安楽につながり、皮膚障害の予防に努めることができました。今後も引き続き、チームで連携し様々な条件下での体位固定の工夫・検討を行っていきたいと考えています。





院内発表会を開催しました

庶務班長 山下 淳子



平成26年10月1日（水）に院内発表会を開催しました。第1回は平成22年10月1日に当院の開院10周年を記念しての発表会を開催して以来、開院記念行事として毎年この時期に開催しているものです。

第5回となる今年は、準備期間が短かったのですが、臨床研究部長の声かけにより22題もの演題が集まりました。

当日は発表者、聴講者合わせて123名が参加し、活発な発表会となりました。発表5分、討論2分の予定で発表を行いました。持ち時間が十分ではない中、会場からの質疑応答も積極的に行われ、有意義な発表会となりました。

今後もこのような取り組みを通じて、病院の活性化に繋げていきたいと考えています。

NHO高知病院 開院記念 第5回院内発表会プログラム

17:40-17:45 開会にあたって	病院長 大串 文隆
17:45-18:20 セッション1	座長 脳神経外科医長 中城 登仁
① 泌尿器科 膀胱尿管逆流症に対するデフラックス注入療法の初期治療経験	泌尿器科 笠原高太郎
② 放射線科 当院における血管撮影装置の使用経験	放射線科 宮榮 克孝
③ 薬剤科 抗菌薬サーベイランスの取り組みと現状	薬剤科・ICT 高野 豪
④ 呼吸器センター 当院での完全鏡視下肺がん手術の現状	呼吸器外科 澤田 徹
⑤ 呼吸器センター 劇症型マイコプラズマ肺炎の1例	呼吸器内科 高橋 直希
18:20-18:55 セッション2	座長 リウマチ科医長 松森 昭憲
① 臨床検査科 当院における呼気NO検査と関連疾患について	臨床検査科 福留江里奈
② リハビリ科 利便性に優れたバランス評価法	理学療法士 加嶋 憲作
③ 看護部 指さし呼称の定着を目指して ーデモンストレーションの効果を見るー	看護医療安全担当者会 山下 由
④ 皮膚科 皮膚科診療に役立つiPhone・iPadの活用法	皮膚科 三好 研
⑤ // スタッフ間の情報伝達におけるサイボウズLiveの有用性	
18:55-19:05 ー休憩ー	
19:05-19:47 セッション3	座長 教育担当師長 森本 純子
① 平成26年度の診療報酬改定	企画課 井上 昇
② 看護部 初めてのプリセプターを行った際に心の支えとなった体験	3階南病棟 月原 愛香
③ 看護部 脊椎腹臥位手術時の皮膚障害予防 ー体圧軽減のための体位固定の検討ー	手術室 永谷真紀子
④ リハビリ科 経口摂取が可能な成人男性脳性麻痺患者のAlb値に関連する因子 ー生化学検査結果、体格指標、栄養指標、ADLとの関連ー	言語聴覚士・重心NST 野々 篤志
⑤ 小児科 重症心身障害児病棟の気管支鏡	武市 知己
⑥ 耳鼻咽喉科 咽喉頭異常感症に対するPPIと六君子湯の併用効果	中野 誠一
19:47-20:29 セッション4	座長 呼吸器科医長 岡野 義夫
① 看護部 重症心身障害児・者の胃がんのターミナルケア ーチーム医療を通してー	1階中病棟 澤本 佳子
② 栄養管理室 よりよい食事サービスの向上に向けて～調理師の視点から～	調理師 小松 勇
③ 看護学校 急性期看護学実習に向けた術後観察シミュレーションの効果 ー学生がモデル人形を準備してー	教員 谷内 典子
④ 看護部 新生児蘇生場面において助産師がCPAP実施を躊躇する因子	4階南病棟 久保 美樹
⑤ 消化器センター 膵尾部嚢胞性腫瘍の一例	消化器外科 山崎 誠司
⑥ 消化器センター Helicobacter pylori除菌薬の種類別除菌率の検討	消化器内科 村山 典聡
20:29- 閉会にあたって	病院長 大串 文隆

放射線治療専門 放射線技師試験を受験して



診療放射線技師 近藤 匡史

放射線治療は手術や化学療法と並ぶ『がん治療の3本柱』のひとつです。昨今の放射線治療の技術は飛躍的に発展し、手術と同等の成績を収める症例も多々あります。

そんな放射線治療を専任する放射線技師が、放射線治療専門放射線技師（以下「認定技師」）です。

認定技師は照射を行うために必要な知識や技術に加え、治療機器の品質保証・管理（以下「QA・QC」）を行う知識と技術を身につけています。適正な放射線を照射するために、多岐にわたるQA・QC項目を管理することで『安全・正確』な放射線治療が提供できるようになっています。

認定技師になるためには、放射線を管理する知識や技術の習得に加え、腫瘍学・看護学・リスクマネジメント学など多岐にわたる知識を問われます。また、認定試験を受けるには、放射線治療の経験が5年以上あり、所定の学会に5年以上在籍し、受験に必要な講義を受けて所定のポイントを取得することが必須条件になっており、受験資格を得るまでがひと苦勞です。

さて、私事ですが、ようやく認定試験の受験資格を得ることができましたので、平成26年8月30日と

31日に東京の駒沢大学で行われた試験を受けてまいりました。

30日は大学の大讲堂で284名の受講生が朝から晩まで講義を受け、知識の再確認等を行いました。翌日の31日が試験日です。朝から緊張感漂う会場で245名の受験者が認定に向けて試験に取り組みました。

試験は正直難しかったです…が、無事合格でき、晴れて放射線治療専門放射線技師になりました。この場をお借りしまして、受験するにあたり、資格認定支援対象者へ推薦していただいた大串院長、試験勉強を後押ししていただいたスタッフの皆さんへ深謝いたします。

現在、高知県には9名の認定技師が名簿登録されています。そのうち、当院には3名の認定技師が在籍していますので、毎日安心して放射線治療が提供できるようになっています。私は新米認定技師ですが、当院の放射線治療が『安全・正確』に行われるよう、日々精進して頑張りたいと考えています。

当院における省エネ対策

～ボイラー、冷凍機更新から1年～

ボイラー技士長 片岡 廣明



当院は平成12年10月に国立高知病院として発足しましたが、その前の平成10年2月に新築建物で仮オープンしました。それから早くも15年以上が経ち、機械設備等も老朽化しているものも出てきました。そして、国立病院機構内病院のエネルギー消費状況を調査したところ、当院が一番のエネルギー消費病院であるとのデータが出ました。

そこで、国立病院機構全体で省エネ対策をする方向性があったことと、当院の老朽化した設備の更新時期でもあったことから、機構本部の支援も受けながら平成24年度に省エネ工事を実施しましたので、その主な内容について報告します。

なお、工事期間中は騒音や断水、停電、駐車調整等でご迷惑をおかけしましたが、患者さんや職員のご協力が無事終了することができましたことをお礼申し上げます。

【工事の概要】

①ボイラー4基更新

ボイラー燃料は最初A重油を予定していましたが、ちょうど都市ガス工事の補助金（補助金は本体及び工事費合計の3分の1）が受けられる時期であった

こともあり、クリーンエネルギーである都市ガスを使用することに変更しました。なお、ボイラー1基については、都市ガスとA重油とも使用できるマルチタイプにしています。

②冷凍機（全館の冷暖房を行う設備）1台更新

既設置の冷凍機は、冷水と温水を同時に作れる四国に2台しかない特殊な冷凍機でしたが、省エネ対応の冷凍機ではありませんでしたので、省エネ化を図るために冷水はヒートポンプチラー（電気）に、温水はプレート熱交換器（蒸気）に変更しました。

③冷温水ポンプインバータ化

このポンプは病院の冷暖房を行う為に必要なもので、冷温水1次ポンプ、冷温水2次ポンプ、冷却水ポンプ等多数ありますが、これらのポンプのロス削減し効率性をあげるためにインバーターを取り付け省エネ化を図りました。

④その他工事

当院では24時間空調システムとなっていますが、蒸気バルブに自動開閉弁を取り付け、夜間蒸気を使用していない時間帯は蒸気を止めることで省エネ化を図りました。

都市ガスボイラー



ヒートポンプチラー



【省エネ効果】

昨年度と本年度の半年間を比較すると下記の表の通りです。都市ガス使用量は152,735㎡と新たに増えています。重油使用量▲463,648ℓ、電気使用量▲668,500 kwhの削減となりました。

	A重油使用量(ℓ)			都市ガス使用量(㎡)			電気使用量(kwh)		
	25年度	26年度	差	25年度	26年度	差	25年度	26年度	差
4月	87,466	12,686	▲74,780	0	29,763	29,763	607,300	482,910	▲124,390
5月	79,717	11,946	▲67,771	0	25,977	25,977	655,720	527,500	▲128,220
6月	89,528	25,966	▲63,562	0	24,726	24,726	684,160	577,350	▲106,810
7月	136,171	51,126	▲85,045	0	24,575	24,575	812,860	707,390	▲105,470
8月	145,879	49,961	▲95,918	0	24,006	24,006	837,670	714,360	▲123,310
9月	100,658	24,086	▲76,572	0	23,688	23,688	698,260	617,960	▲80,300
合計	639,419	175,771	▲463,648	0	152,735	152,735	4,295,970	3,627,470	▲668,500

本年は夏場冷夏で涼しかったことや使用量は外気温や負荷変動に大きく左右される為単純な比較は難しいですが、かなりの省エネ効果が出たといえます。

これからも省エネ、コスト削減を目指していきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

デング熱について

薬剤科長 林 武文



デング熱は、ネッタイシマカやヒトスジシマカによって媒介されるデングウイルスの感染症です。デングウイルスは日本脳炎ウイルスと同じ科に属するウイルスで、蚊によって媒介されます。そしてデング熱は感染症法で4類感染症全数届出疾患に分類されるため、保健所に届け出る必要があります。

症状 および検査所見

3～7日の潜伏期間後に、発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔気・嘔吐などの症状がおこる。通常、発病後2～7日で解熱し、そのまま治癒する。約半数に皮疹が認められ、初期にみられる皮膚紅潮、解熱時期に出現する点状出血、島状に白く抜ける麻疹様紅斑など多彩である。検査所見では血小板減少や白血球減少が半数近くの患者さんに出現する。またCRPは陽性化しても高値にならないのが特徴である。重症型デングは解熱傾向に入った時期に突然発症する。発汗や四肢の冷感、血圧低下がみられ、しばしば出血傾向（鼻出血、消化管出血など）を伴う。

治療

デングウイルスに有効な抗ウイルス薬はなく、対症的に治療を行う。水分補給や解熱剤（アセトミノフェンなど）の投与等である。アスピリンは出血傾向やアシドーシスを助長するため使用すべきでない。重症型デングをおこした患者さんについては、循環血液量を改善させるための輸液を適切に行う。

予防

デング熱には現時点でワクチンがないため、予防には蚊に刺されないような対策をとる。国内では、ヒトスジシマカが主要な媒介蚊であり、昼間に活発に活動する。デング熱は患者から直接感染することはないが、針刺し事故等の血液曝露で感染する可能性があるため十分に注意する。有熱時にはウイルス血症を伴うため、蚊に刺されないようにすることが重要である。



●●●●● 栄養管理室より

主任栄養士 永野 由香里



選択食のご紹介

当院では、毎日昼食と夕食に選択食を実施しています。

対象は一般食をお召し上がりの患者様で、「AとB」の2種類から好きな方を選んでいただけるようになっています。

メニューは和食をはじめ、焼きそばやスパゲティなどの麺類、サンドイッチ等のパン献立など、さまざまなメニューを取り入れるよう心がけています。

※ 選択食は特別な経費をいただいておりません。

アレルギーや禁止食品がある場合は、選択食の対象外となりますのでご了承下さい。

A食



B食

A食



B食

栄養食事指導について

当院で治療されている患者様で栄養食事療法の必要な方には、医師の指示に基づき管理栄養士が栄養食事指導を行っています。

入院中のお食事の説明をはじめ、家庭での食事のとりかたなど、患者様個人の生活に配慮した指導を行っています。

食事療法は無理なく、継続していくことが大切ですので日頃のお食事や、その他栄養に関する不安や疑問などがありましたら、ご遠慮なくお気軽にお声かけください。

栄養食事指導は入院・外来どちらも予約優先ですが、随時対応しておりますのでご希望の患者様は主治医にお尋ねください。



高知病院つくし病棟に 【熱い夏】がやってきました!!



児童指導員 徳山 純一

今年の「高知よさこい祭り」は台風11号の影響でその開催が大変危ぶまれましたが、毎年このお祭りを待ち焦がれる人たちの思いにより無事に本番開催となりました。その思いは、高知病院つくし病棟（重症心身障害児者病棟）の利用者も同じでした。8月11日（月）に「華・男衆」のみなさんのご厚意で来院予定となっていました。台風の影響もありその来院がどうなるかという状況で、利用者みなさんは大変心配していました。しかし、当日は見事に快晴！利用者みなさんも一安心。その日は予定通り「華・男衆」のみなさんの来院があり、高知病院つくし病棟に『熱いよさこい』と『熱い夏』を届けてくださいました。

一番驚いたのは、「華・男衆」のみなさんは全員が男性。さらに男前揃い!! 女性利用者や職員から

は黄色い声援!! しかし、よさこい踊りが始まるとその力強く迫力満点の動きに会場にいたみなさんは圧倒され、終始魅入ってしまいました。利用者みなさんもよさこい踊りのリズムに合わせて、鳴子を振りながら一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

今回、「華・男衆」のみなさんは他の会場で幾つものステージがあるという事で短い時間での訪問となりましたが、利用者みなさんにとっては夏の良い思い出になったことは言うまでもありません。

「華・男衆」のみなさん本当にありがとうございました。この場をお借りして感謝を申し上げます。利用者からは、「また来年も男前に来てほしい」との声もありましたので、これに懲りずに来年も「熱い夏」を届けて頂ければ幸いです。



感染管理室だより

冬の感染症に注意

感染管理認定看護師 原 昭恵



空気が乾燥し気温が低くなる冬の時期は、感染症に注意が必要な季節ともいえます。冬季に問題となる感染症にはかぜ症候群やインフルエンザなどの呼吸器感染症があります。低温・低湿度を好むウイルスは、気温が低く乾燥した環境ではより長く生存できるようになるため、感染力が強くなります。また、空気が乾燥していると、せきやくしゃみの飛沫（しぶき）が小さくなり、飛沫に含まれたウイルスが遠くまで飛びやすくなります。そのため、一度のせきやくしゃみによる感染範囲が拡大し、感染スピードも上がります。

一方、人は、気温が低く体温が下がることで代謝が低下し、免疫を担う細胞の働きが低下することで免疫力（病気に対する抵抗力）が下がってしまいます。また、外気の乾燥に加えて、夏場ほど積極的に水分を摂取しなくなるため体内の水分量も少なくなりがちです。体内が乾燥することは、のどなどウイルスの侵入を防いでいる粘膜の絨毛運動が低下するためウイルス感染を起こしやすくなります。

以下のことに注意し、自分自身がかからないよう、また、他の人に移さないよう気をつけましょう。

保温：身体を冷やさないような衣類の調節、室温は20℃前後に調整しましょう。

保湿：部屋の湿度は60%程度を目安にしましょう。

水分補給：十分な水分補給をすることでのどの粘膜の絨毛運動を活発にしウイルスの体外排出を助けます。屋外ではマスクでのどを保湿するのも効果的です。

手洗い：セッケンで15秒以上、できれば30秒以上かけてていねいに洗いましょう。

うがい：「口やのどの洗浄」「痰などの除去」「粘膜の自浄作用促進」などの効果があります。

栄養：バランスのとれた食事は健康を維持するために必要です。

睡眠：規則正しい生活と十分な睡眠で疲れをとることが大切です。

せきエチケット：自分が咳をしている場合や、人混みの中に外出する場合はマスクをつけましょう。

職員の異動

転出

一般職員（入院係） 小松 信裕 2014年10月1日付
四国こどもとおとなの医療センターへ

転入

看護師 野口 和加 2014年10月1日付
呉医療センターより

退職

副看護師長 佐々木牧子 2014年9月30日付

看護師 弘瀬 啓子 2014年9月30日付

看護師 前田 千晶 2014年9月30日付

採用

作業療法士 北 大介 2014年8月1日付

医療安全管理室だより

—医療安全研修の取り組みの実際—

医療安全管理係長 山本 三恵



医療安全の目指すところは、「医療現場におけるエラーを防ぎ事故を防止すること」です。人間は誰でも間違えるという特性を持っています。しかし間違いは防ぐことができます。そのために、間違いにくいシステムを構築することが重要とされています。

そこで取り組んだ「エラー防止のためのシステムづくり」を紹介します。

患者さんが再来受付機で外来基本伝票を取り間違えないように工夫した事例です。

病院に受診する際には外来受付に設置している再来受付機に診察券を通して受付をします。受付機に診察券を通して受診科等の操作が終わると診察券と外来基本伝票が出力されます。この出力された外来基本伝票を患者さんが取り間違える事例が月に4～5件発生していることが判明しました。現在のところこれによる大きな事故は発生していませんが、今後患者間違いに関連した大きな事故につながる危険な状態でした。外来基本伝票取り間違えの原因を検討

したところ、受付機とプリンターが一体型になっている機械の隣に違う受付機のプリンターが配置（写真1）されていました。人間には「見たいように見る、思い込む」などの特性があるため、これだと隣のプリンターに出力された外来基本伝票が自分のものと勘違いしやすい環境だったといえます。

そこで、プリンターの位置を端に変更（写真2）しました。こうすると他の受付機のプリンターから誤って基本伝票をとることはできにくくなりました。結果、基本伝票の取り間違いはなくなりました。

インシデント報告書をみると、「注意して確認」との対応策がよく立てられています。確かに個人レベルの対応策もありますが、ほとんどの場合は、個人レベルではなく組織によるシステムの改良（今回紹介した事例のような）が必要です。インシデントを個人の反省でとどめず、病院全体の問題かも。。。と考え、まずは所属長にインシデント報告をお願いします。それが、安全への第一歩です。

受付機の間であり、左右どちらの受付機のプリンターかわかりにくかった。



写真1

プリンター専用の受付機がわかりやすくなった。



写真2

変更後

地域医療連携室だより

地域医療連携室 看護師長 秋森 容子



すっかり季節も秋になり、気持ちの良い気候となりました。今年の夏のお天気は、台風、豪雨の記憶ばかりで私の自宅周辺も2週間続けて陸の孤島になりました。

さて、10月22日の高知病診連携フォーラムでは、「小児の予防接種」をテーマにとっても興味深い講演を聞くことができました。当院の小児科武市医長の「予防接種 針の刺し方-私の場合-」では小児の予防接種での多くの経験から事前準備を細やかに行う安全でスマートな手技を教えていただき参加していた医師や介助に当たる看護師にも良い機会となりました。

また、高知大学医学部小児思春期医学講座の藤枝教授に来院いただき「小児の予防接種-利点と問題

点-」についてお話頂きました。高知県の小児予防接種の傾向や代表的な感染症とワクチンについての中で、肺炎球菌のワクチンは、こどもに進めれば、高齢者の肺炎が減るなど興味深い内容で子育て中の職員や一般の方にも聞いてもらいたい内容でした。

次回、11月のフォーラムのテーマは、「院内感染で重要なウィルス感染対策」です。当院のICTの岩原義人内科系副診療部長と原昭恵感染対策認定看護師がお話をしてくれます。今、世界を騒がせているエボラ出血熱も感染対策は他の感染症と基本は同じだと思います。

是非、この機会に有効な感染対策について聞きに来ていただきたいと思います。



地域連携室 看護師 沖島 百代



十月から地域医療連携室に配属になりました、看護師の沖島です。前方支援、後方支援ともに患者様の立場に立ち、スムーズに支援ができるようがんばっていきたいと思います。

まだ慣れていないことも多いですが、よろしく願いいたします。

地域連携室 看護師 森本 朋代



2月より地域医療連携室に配属になり、はや9か月が経とうとしています。

今まで病棟や外来で勤務していた私にとって、経験のしたことのない分野で、日々勉強の毎日です。

至らない点も多々あるかと思いますが、地域の病院や施設方々との信頼関係を大切に一生懸命頑張りたいと思います。今後とも宜しく願い致します。

つくし花火大会 ～おみこしわっしょい、 花火でわっしょい～



保育士 松崎千江子

つくし病棟の夏の行事、つくし花火大会が賑やかに行われました。日頃外出の機会の少ない利用者の方にとっても、夏の楽しみの行事です。例年南病棟、中病棟、北病棟合同で行われる行事ですが、今年は各病棟にわかれての花火大会となり、それぞれ工夫を凝らした内容となりましたので紹介させていただきます。南病棟では、夕食後デイルームに集まり、花火の前の出し物として、利用者の方の歌、合奏、紙芝居を楽しみ、この日に向けて利用者の方みんなで手作りしたおみこしで病棟を練り歩きました。外が薄暗くなった頃ベランダにでて、お待ちかねの花火のはじまりです。手持ち花火、仕掛け花火に歓声があがり、笑顔や笑い声はじけました。終わってからも「もっとしたかった」と興奮さめやらずの様子でした。この日のために、病棟の方みんなで力を合わせてキティちゃんのおみこしを作っていた中病棟は、

残念ながら体調不良の方が多く、部屋から中庭の花火を鑑賞することになりましたが、保育士のハンドベル演奏もあり、窓から見る花火に驚いたり、じっと見たり、少しの時間ですが、家族の方と一緒に手持ち花火を楽しんだりしました。北病棟は、始まる時間になるとデイルームは熱気ムンムンで、大勢の利用者さんや家族の方が集まり、早速、歌や合奏、大型紙芝居、看護師による踊りを一緒に楽しみました。手作りおみこしで盛り上がったあとは、中庭に出て花火です。仕掛け花火に歓声や拍手がわき「綺麗やねえ」の声があがりました。手持ち花火を持って、利用者さんを中心に御家族の輪があちこちで見られました。

楽しかったつくし花火大会、利用者の方一人一人に夏の思い出として残りました。



看護学校だより

第10回 中国四国地区国立病院機構・ 国立療養所 看護研究学会 in サポートホール高松



看護学校 井原 美由紀

発表者の近くで聴講中



平成26年9月20日(土)、第10回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会に学会参加が初めての2年生とともに参加しました。会場では大勢の看護師の中に飛び込んで真剣に示説、口演の発表を聴講していました。発表を聴講した学生から、「発表する姿勢からも研究に一生懸命携わってきたことが分かった。」「質疑応答のやり取りから発表を聴いただけでは得られなかった学びが得られた。」など臨地における実際の看護を研究的な視点で聴講することができ、活字からの知識では学べないものを得られていると

感じました。

また、今回は「看護師と学生のひとこと交流コーナー」が設けられました。学校生活での取り組みが伝わるようにポスターを工夫し、学習の成果も伝わるようにと演習ファイルなども展示しました。他校の学生や病院スタッフよりコメントを頂き、「活動を継続していくことへの刺激となった。」「同じように頑張っている仲間があると実感した。」などこれからの学ぶモチベーションが向上した1日になったようです。学会を通して得たことをこれからの学校生活にともに生かしていきたいと思えます。

掲示したポスターと学習成果



高知病院附属看護学校

おんりんピック
昨年、高知県で開催されたおんりんピックにスタッフとして参加しました。併せて、毎年高知病院で行われる健康フェスタや地域の介護施設 看護学校のボランティア活動にも今年で積極的に取り組んでいます。対象者からの感謝の言葉や温かい言葉をかけていただくことができました。そして、その方たちのために自分が今何ができるのか考えて働くことの大切さを知りました。

ボランティア活動
昨年は、高知県で開催されたおんりんピックにスタッフとして参加しました。併せて、毎年高知病院で行われる健康フェスタや地域の介護施設 看護学校のボランティア活動にも今年で積極的に取り組んでいます。対象者からの感謝の言葉や温かい言葉をかけていただくことができました。そして、その方たちのために自分が今何ができるのか考えて働くことの大切さを知りました。

年間のボランティア参加人数はのべ200人！！

健康フェスタ クリスマス会

看護祭
看護祭では、病室の職員にも色紙などの贈り物や記念品を送り、重症心身障害者病棟の患者さんにも来て頂いて交流の場を作っています！

今年 10月18日開催！

やまてばし、たけのこでー

新入生歓迎大会
2年生がひとひとおん入いっぺんをグループごとに作成。おん入の衣装を賞状も贈ることができ、大変好評です！

予校会
3月に3年生の別荘会として予校会を開催し、生徒の思い出の場として、毎年11月1日開催です！

ウィルセシモノー
ウィルセシモノーを1年次に行い、全員で誓いの言葉を考え、これからの学習や進学に向けての決意を新たにしました。

実習
実習には、実習の開始を想定した技術練習を行っています。実習では先生や指導者から指導を頂きながら、患者さんに全容を看護体験を学んでいます。

QC活動
学校生活をよりよくするために私たちが行っているのが、QC活動です。部活動の経験や、アルバイトなどの活動を行いました。学校全体の改善を10月21日に、たけのこは、社員の経験で、バイクと自転車に分けて経験することで見直しをさせていただきます。置きやすさも学びました。この活動も継続中！！

平成27年度一般入学試験情報	
出願期間 (消印有効)	平成26年12月17日(水)～平成27年1月7日(水) ※持参：午後5時必着
試験日	平成27年1月22日(木)
試験科目	国語：国語総合(古文、漢文除く)・現代文 英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ(全科目、全問マークシート方式) 面接
合格発表	平成27年2月5日(木)

※推薦・社会人入試もありますが、今年度の出願は終了しております。

ウィルセレモニー

第52期生 泉谷 紗智子 谷 果菜

平成26年10月3日（金）、ご来賓や在校生、教職員、保護者の方々に出席していただき、第9回ウィルセレモニーを行いました。

看護師を目指す者として決意を固めるセレモニーを成功させるため、先輩の助けを借りながら42名一丸となって準備を進めてきました。一人ひとりが自分の理想とする看護師像を思い描き、全員で誓いの言葉を考えることで、お互いの看護に対する姿勢を確認することができました。当日は、少し緊張して式に臨みました。全員がナイチンゲール像から灯をいただき、誓いの言葉を述べました。



52期生 誓いの言葉

- 命に携わる職業として、看護に責任をもち、命の尊さを心に刻んで看護していきます。
- 患者さんの言葉にできない心の声に耳を傾け、1人1人に合ったより良い看護を目指します。
- 守秘義務を守り、患者さんやご家族に対して知り得た事柄は一切口外しません。
- 生涯学び続ける気持ちを忘れず、学んだことを看護に活かせる行動力のある看護師を目指します。

私たち52期生は誓いの言葉を胸に刻み、それぞれの夢に向かって日々精進していきます。

セレモニー後の成果発表会では、日々の学習内容を出身高校の先生や保護者に発表し、入学して半年間の成長を見ていただきました。

これからも切磋琢磨し合ってお互いを高めあい、看護を学んでいきたいと思いをします。



講義で学習した体位を調整する技を披露



高校の恩師に手浴を実施

外来診療担当医表

(平成26年10月27日現在)

■受付時間 8:30~11:00

整形外科 火曜日は予約患者のみの診察になります。
(新患、予約のない方は原則診察できません)

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日

独立行政法人
国立病院機構

高知病院

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
http://www.hosp.go.jp/~kochihp

診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	1 診	⑫ 村山 典聡	内藤・岡野	香川・町田	板垣・平尾	島山・高橋
	特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来				化学物質過敏症(予約制)	
神経内科		⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	島山 暢生	大串 文隆 (H26.1月から紹介のみ)	岡野 義夫
	2 診	⑥			町田 久典	篠原 勉
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器内科	午前	⑨ 井上・板垣	平尾 章博	板垣 達三	井上 修志	平尾 章博
循環器内科	午前	⑦ 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	1 診	① 武市 知己	井上 和男	武市 知己	小倉 英郎	井上 和男
	2 診	② 大石 尚文	大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	高橋 芳夫
	3 診	③	小倉 英郎		武市 知己	小倉由紀子
	午後 専門外来		神経・アレルギー (第2月医大循環器)	アレルギー 循環器	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ
	予防接種	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)
外科	午前	⑤ 大塚 敏広	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	小笠原 卓
	午後 専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	午前	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原 一仁	土岐 俊一
	午後		土岐 俊一		田村 竜也	
脳神経外科	1 診	⑧ 非常 勤	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁
	2 診					
呼吸器外科	午前	⑦	日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前	⑤				
皮膚科	午前	⑬ 三好 研	三好 研	三好 研	三好 研	三好 研
泌尿器科	午前	⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 亀井(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前	⑳ 滝川 稚也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	
	午後					
婦人科	午前	㉑ 福家 義雄		小林 文子	滝川 稚也	当番医
		原田 裕子				
眼科	午前	㉒ 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑯ 近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野
	午後 専門外来		14:00~(予約制) 嚥下・睡眠時無呼吸外来			
リハビリテーション科						
放射線科		小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。
※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。